





国道274号 除雪作業の様子

国道274号  
立ち往生車両

強風が発生し、23日の夜から24日の朝にかけて、北よりの風速20m/s前後の強風が長時間にわたり吹き付けました。岩見沢の最大瞬間風速は23日の18時58分で2月として第3位の記録となる27.5m/sでした。また長沼は12m/s以上を記録しています。このほか低気圧が接近した北海道南西部を中心に暴風雪、普段は降雪量があまり多くない太平洋側でも大雪となり、恵庭島松での日降雪量40cmは、2月として第2位の記録。千歳や長沼周辺では23日17時頃から1時間に10cm程度の強い雪の降り方をしています。

その時の状況を、国土交通省北海道開発局札幌開発建設部千歳道路事務所維持課が振り返ります。

「当事務所では、降雪や吹雪の状況より、国道の除雪作業を行っていますが、当時は、2月23日の午後5時頃から一般国道274号長沼町の除雪作業を開始していましたが、暴風雪による地吹雪発生により、一般ドライバーが運転する車両が地吹雪による吹き溜まりに突っ込むなど、立ち往生する車両が多く発生しました。そのため、先頭及び後続車両から1台ずつ順次救助する一方で、除雪トラックによる車線の確保に努めていましたが、地吹雪区間が広範囲で地吹雪がなかなか収まらない状況であったことにより、立ち往生箇所が多発するなど、除雪作業が進まない状況でした。

そこで、道道札幌夕張線交差点から由仁町三川までの約19kmの区間で2月24日午前2時から午後5時にわたって通行止めを行いました。通行止め区間においては、立ち往生車両のドライバーや同乗者へ

の声掛け等安否確認やガソリン等の補給を実施するとともに、朝方から、水・おにぎり等の食料や簡易トイレの支給等も行いました。また、道の駅マオイの丘公園を避難場所として開設するように、長沼町への要請依頼をするとともに駐車場を救出した車両の一時待機スペースとしての利用を図りました。

天候の回復が見られたことにより、隣接している札幌道路事務所及び岩見沢道路事務所の応援を受け、除雪車両と人員を総動員して立ち往生した車両周辺の吹き溜まりを除去し、除雪車で先導しながら立ち往生車両約140台の全車を救出し、その後拡幅除雪や路面整正等の作業を完了させ、通行止めの解除を行いました」

## 人命が失われることなく、 ほっとひと安心

こうして24日の昼頃から、北広島側、由仁側、千歳側の三方向から立ち往生車両の救出を行いながら除雪作業を開始し、24日の夕方5時に通行止めを全面解除しました。「人命が失われることなく、本当によかった」と、時間が経った今も千歳道路事務所維持課では、ほっと胸をなでおろします。

なお、話は前後しますが、千歳道路事務所が長沼町の道の駅「マオイの丘公園」へ避難所開設の要請依頼を長沼町に入れたのが23日の23時45分。これについては、長沼町でもお話を伺っています。

## 防災拠点としての 道の駅「マオイの丘公園」

### 駐車スペース、24時間使用可能の トイレがある道の駅を避難場所に

急速に発達した低気圧の影響で、平成20年2月23日午後5時頃から冬の嵐に見舞われた長沼町。町内を幹線である一般国道274号が通過しますが、この日はドライバーにとって最悪の条件下にありました。



長沼町 産業振興課  
課長

山科 隆男さん

「ひどい天気でした。その日、アルバイトに出ていた娘に、万が一のことがあっては大変と思わざるを得ないぐらいの雪や風だったので“無理して家に戻ってこなくてもいいから、今夜は友達のとこに泊めてもらいなさい”と、そんな指示をしたぐらいです」と話すのは、長沼町産業振興課の山科隆男課長。

千歳道路事務所では、前方の走行車両や雪山確認が困難なため、車両への追突や吹き溜まりへの突込みによる立ち往生が起きやすい状況にあると判断し、それを回避するためにも、車両の駐車スペースが広く、24時間使用可能のトイレがある一般国道274号沿いの道の駅「マオイの丘公園」の利用が非常に有効であると着目。23日の23時45分に長沼町総務政策課へ電話で、道の駅のセンターハウスを一時避難場所として開放願えないか依頼しました。

千歳道路事務所では、前方の走行車両や雪山確認が困難なため、車両への追突や吹き溜まりへの突込みによる立ち往生が起きやすい状況にあると判断し、それを回避するためにも、車両の駐車スペースが広く、24時間使用可能のトイレがある一般国道274号沿いの道の駅「マオイの丘公園」の利用が非常に有効であると着目。23日の23時45分に長沼町総務政策課へ電話で、道の駅のセンターハウスを一時避難場所として開放願えないか依頼しました。



国道274号沿い「道の駅マオイの丘公園」

長沼町総務政策課では、道の駅の管理者である産業振興課の山科課長へ連絡。長沼町としても例のない要請でしたが、事情が事情だけに早急に対応しました。山科課長はまず、自宅から猛吹雪の中、雪山を必死の思いで越え役場へ向かい、それからは除雪車に先導され、道の駅へ。こうして24日の午前2時に道の駅「マオイの丘公園」は避難場所として開設されました。

### 携帯電話よりも、 固定電話が大活躍

「延べ100人ぐらいの利用があり、やはり女性の方はトイレに困ったようでしたが、道の駅ならもう安心と、ほっとされたようです。また意外と携帯電話の電池切れを訴える方も多く、固定電話が大活躍しました。なにぶん、センターハウスは避難所という想定がされておりませんので、ちょっと休めるような、軽く仮眠できるようなテーブルやイスがあればよかったのかな、そんなふうにも思います。駐車場の方は、うまい具合に風が抜けてくれたのか、特段除雪は必要ありませんでした。食料類については道路事務所さんでも配られていますし、自ら近くのコンビニを利用する方もいたようです」

道の駅の事務所が3階にあり、関係機関から新しい情報が記載されたFAXが入ってないだろうかと、上へ、下へ。24日の夜中何度も、山科課長は館内を行き来していたそうです。24日昼くらいからは車も徐々に動きだし、中にはボンネットを開けたら雪がいっぱいだったという車両はありましたが、大事に至らず、皆無事家路に向かいました。その姿を見送る山科課長の頭によぎったのは「ところで自宅の除雪は、どうなっているのだろう…」。

「マオイの丘公園」は高台にあることから、今後、津波などの避難場所としてもまた活用されていくかもしれません。今回の災害で、道の駅の新たな側面がクローズアップされました。道内の道の駅で、こうした大切な役割を果たしたのは長沼町が初めてです。

ちなみに「マオイの丘公園」は、サイロの丸みを生かした外観が田園風景に溶け込み、地元で生産される新鮮な野菜類の販売が人気です。美しい夕日が眺められることでも知られており、ドライブの途中、ぜひ寄ってみたい道の駅の一つです。